

# ことう地域 チームケア研究会たより



第1号  
平成25年4月20日

去る3月19日に、第1回目の研究会が開催されました。

日時:3月19日(火) 18:30~20:30

会場:彦根市立病院 医療情報センター 多目的室

参加者:94名(医療関係者:17名、福祉関係者:58名、行政等:19名)



まず、研究会の目的と世話人の紹介があり、その後、話題提供が松木先生よりありました。話題提供の内容などを含め、参加者が8つのグループに分かれ、意見交換を行いました。意見交換の内容を参加者全員で共有し、最後に参加者全員の自己紹介で一回目の研究会を終えました。

目的… 湖東地域の住民が、どんな状態でも自分らしく、いきいきと暮らせるしくみづくりのために、関係者がお互いの不安や不便を分かち合ったり、関係職種をわかり合う取組を通じて、チームづくりを進めることや、実際の支援に反映させること

世話人… 小林進、松木明(彦根医師会)、赤井隆(彦根歯科医師会)、近藤嘉男(彦根薬剤師会)、鈴木則成(彦愛犬事業者協議会)、辻広美(彦愛犬ケアマネ協議会)、野瀬充恵(訪看協議会)、菅原幸一、林優子(地域包括支援センター)、事務局:彦根市健康推進課、湖東健康福祉事務所

以下は当日の様子です。

## 話題提供

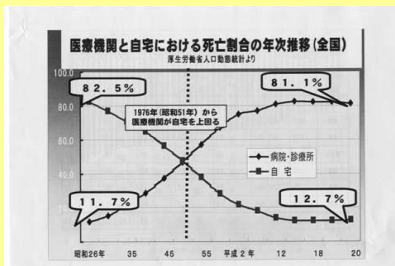
**在宅医療・在宅ケアのこれから**  
～病院で最期を迎えられないワケ～

平成25年3月19日(火)  
ことう地域チームケア研究会にて

彦根医師会 松木診療所  
松木 明

**病院で死にたい?**

- 病院は治療して治すところ
- 治療に失敗すれば、死んでしまう
- 急性期の死は、急性期病院で
- かつて、老人病院がいっぱいあった
- そこで老人たちは寂しく死んでいった
- 慢性期の死は老人病院で、でいいのか



**団塊の世代が死を迎える**

- 大量死の時代がやってくる
- 病院で扱うのは急性期の死のみ
- 施設もそれほど増えない
- 在宅で人の死を支えざるをえなくなる



**在宅ケアの問題点**

- 医療—福祉(介護)—保健の連携
- ケアマネジャーの質と地位の向上
- 独居高齢者をどう守るか
- 認知症患者をどう守るか
- 介護者の支援体制

**連携についての考え方**

- 誰のための連携—患者・利用者のため
- 連携には「のりしろ」が必要
- 連携には、信頼が基盤に
- 顔の見える関係
- チームとして対等で平等
- 責任転嫁・責任のがれをするな

## グループワーク

### ★講演を聞いた感想・もっと知りたいこと ★今、私たちの取り組んでいること など



- ・看取り: 家族が「まだ治るのではないか、病院へ連れて行って」と言う
- ・うまくいったケースは、家族の在宅で看取するという強い思い
- ・支援者も共通認識できている
- ・かかりつけ医・往診していただける医師が増えるといい
- ・在宅で看取りをするよさ・時代が来ている
- ・住民への啓発→行政が提供する必要性

- ・薬剤師・介護職の意見交換ができた
- ・薬剤師さん: 研修会を開催し、介護・医療の一体化を目指している  
介護の現場が十分見えていない...
- ・現場で自宅での看取りの不安がある
- ・家族も在宅看取りを知る必要があるのではないか

- ・家族の揺れ動きへの対応
- ・状況変化への対応に不安がある
- ・施設職員 受け入れ体制について話し合っている
- ・在宅看取りに慣れていない看護師 モニターがないと不安
- ・死のプロセスの理解の促進をしていく
- ・リビングウィルの啓発が必要
- ・支援者が腹をくくる

- ・看取りを経験した人が少ない(若い世代)
- ・何もしないということ: ケアは何かしてあげる仕事の中で、何もしないことへのつらさはどう向き合うか
- ・看取りをする、家族と話すことの大切さ
- ・ケアする職員 看取りケアをした職員から話を聞くこと大切



- ・ターミナルケアをこれから学びたい
- ・認知症 本人に意志を確認しづらい 家族への確認
- ・施設から病院へ まだまだ多い
- ・地域でなくなることのネック 検死になったら...と不安
- ・どう支えるか その時その時に誰が伝えるか 訪問看護の役割
- ・どう生き、どう死にたいか 住民啓発が必要

- ・看取りたいという相談より...入院・入所を希望のケースもある 「不安」や「大変」があるのでは?
- ・施設でよい看取りができた事例ある。
- ・家族の強い気持ち、親戚など周囲も含めた覚悟
- ・在宅医療をしていただく医師の負担軽減
- ・住民の理解
- ・独居・高齢世帯への支援をどうしていくか課題

- ・最後の希望を誰に確認しているのか
- ・本人の希望が聞けていない 家族に聞いて支援している現状 家族が病院・施設を希望
- ・往診医の不足(特に山間部) 介護サービスだけでは限界
- ・デイサービスでの受け入れ困難 支える側の在宅看取りをする覚悟と看取った達成感
- ・看取りの啓発が大事

- ・施設 看取りをするかどうか確認するのに入所時に紙面で確認 本人・家族の思い後から身内が「病院で」となると、施設での看取りができないケースあり
- ・家で看取るには介護力が重要
- ・訪問診療(往診) すぐに来てもらえる、うれしい

## 自己紹介タイム

テーブルごとに所属とお名前を言っていました。これからも続けていこうと思っています。



定例は、..

開催日: 奇数月の原則第2火曜日(変更あり)

18:30~20:30(時間厳守)

今回は...5月14日(火)18:30~20:30

テーマ: 訪問看護=できること・していること=

会場: 彦根市立病院 医療情報センター

※ 申込み不要、当日会場へお越しください

連絡先: ことう地域チームケア研究会事務局(湖東健康福祉事務所)

TEL: 0749-22-1770